

Weekly コラム

令和 2 年 2 月 4 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

信じられない変化

トルコに信じられない変化が起こっているようです。BRICs 投資など新興市場ファンドの第一人者であるマーク・モビアス氏は、イスタンブールで行われたサミット「トルコの投資環境と投資管理の未来」で次のようにコメントしました。『トルコの変化は常にワクワクさせてくれる。トルコに信じられない変化が起こっている。』

世界地図に目を落とすと、ヨーロッパ、アフリカ、中東、ロシア、中国のど真ん中に位置する国、それがトルコです。ここからどこの市場へもアクセスでき、トルコにある工場からは全方位輸出が可能です。中国はイスタンブールをシルクロード構想の最重要都市として位置づけており、これから積極的な投資が始まります。米国も先月、トランプ大統領がエルドアン大統領とホワイトハウスで会談し、貿易額を今の 200 億ドルから 1000 億ドルに引き上げることを約束しました。

トルコには、すでに人もお金も工場も向かい始めています。外国人への住宅販売戸数（10 月）は単月で最も増え、今年の住宅販売戸数は過去最高を更新する見通しです。日本からも 200 社以上の企業がトルコに進出しており、トヨタや GS ユアサ、住友ゴムなど日本を代表する企業が積極的に進出しています。今後最も注目されるのは、世界最大の自動車メーカーであるフォルクスワーゲン（VW）の新工場建設計画です。投資総額 14 億ドル（約 1550 億円）規模の大型プロジェクトであり、実現されるとトルコの経済や雇用に関して相当インパクトのある投資になります。

数年来、経済制裁などからくる景気の悪化と、通貨安からくるインフレに苦しんでいたトルコですが、今大きな転換期を迎えています。今年、米国による経済制裁が解除されただけでなく、通貨であるトルコリラ安が進んだことで輸出が大幅に回復し、今年はプラス成長になりそうです。また、国際通貨基金（IMF）や国際信用格付け機関によりますと、2020 年は 3.5% 以上の成長が見込まれています。

通貨安はトルコへの投資を促進させる原動力となっています。トルコリラ／円は 54 円（2014 年 12 月）→ 19 円（2019 年 12 月）となり、5 年で大幅なトルコ安が進みました。その結果、トルコに工場を建設する場合、例えば 5 年前では 54 億円かかっていた建設費用を今は 19 億円に抑えることができます。昨今、通貨が安いうちにトルコに進出しようという国や企業が増えており、この動きがトルコ経済の今後の成長につながっていきます。

最近、トルコリラが非常に底堅く推移しているのも、そろそろ通貨安の時代が終わりに近いことを示しているのかもしれませんが。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。